

# 情報倫理を 評価することは できるのか？

- 法を犯しても善のため
- 悪いことでも法のため
  
- 法を犯しても社会のため
- 社会悪でも法のため
  
- 社会悪でも善のため
- 悪いことでも社会のため

辰己丈夫  放送大学

# ジレンマに見えてジレンマじゃない例

- 私達は誤解に基づく偽ジレンマに囲まれている
  - 法律をよく読むと、それは適応除外だよ。
  - Xさん、それ、嫌じゃなくて、むしろ嬉しいそうだよ。
  - このタイミングで、これを捨てる、むしろエコだよ。
  - そのアンチウイルスソフトは、入れないほうがセキュアだよ。
- ジレンマに見えていても、そうでない
  - 状況を正しく理解するとジレンマじゃない
    - 原因は、誤解(忖度)、無知(不勉強、未更新)
  - 歩み寄り(妥協可能)ができる

# 「ジレンマ」に陥ったときに参照したい

- 法令
  - 憲法、法律、条例、国際法など
- 独自規定
  - 倫理綱領、倫理規定
  - 社内ルール、学内ルール
- 無知が原因で「ジレンマに見える」状況
  - そんな法律があるとは
  - そんな改正がされているとは知らなかった
- 法律をよく読むと、「問題なし」になる
  - 教材の必要性が示される

# イノベーションと「すれすれ」

- 法的・倫理的「すれすれ」から始まったイノベーションの例
  - Google Street View
  - 動画共有サイト(音楽著作権に問題)
    - JASRACなどと提携
  - 検索エンジン(検索サイト)
- いずれも、法的・倫理的にスレスレだけど便利から始まった
- 「指針の空白」「技術本質主義」vs「技術の社会構成主義」

# 一瞬の判断の必要性

- 倫理的なジレンマは突然に訪れ、瞬間の解決が必要となる
  - 著作権法を守るなら、人の生命に危険が
  - 生命を守るためには、著作権法上の違法行為
- トレーニングを受けてないと、瞬間に判断できない
- 日頃、考える練習をしておく価値がある

# 評価

- 見たよ～(見たかどうかを確認)
- わかったよ～(テストを伴う)
- 法規・慣習を知っているか、}の評価はできる。
- 道徳のテストはどうするの？
  - ジレンマを正しく認知しているかどうか。
- フィードバックする？しない？
- テストを通して学習させるかどうか。
- 倫理のテストは満点が基本
  - 「1箇所倫理的に誤りでも、合格」とはいかない
- 繰り返し受験して満点まで待つ
- ジレンマは価値観が対立している
  - 試験で問にくい
  - 「ジレンマにある」ことを選ばせる問題は意味がある
  - 偽ジレンマの解消